

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



[Blank rectangular label on the spine]

詩經全  
卷之...  
...

1

河越熊谷吾野路通三筋行程  
附神社佛閣名所舊跡故事來歴載

繪入

秩父順禮獨案内記

靈場三十四箇所

圓宗著 書採 明泉堂  
静觀補 東門子 梓

秩父東向紀序

寛保能々更の年吉田の里より初と  
せしめて縁起編輯の事思ひこ  
ふし後此の地の柳屋茶角浄波  
柿夕をとりて木のこどもは此の地  
にそと那中とて國を事くよ由緒  
問ひて抄この乃向りのちりり  
あとのつくりの便里を編りま

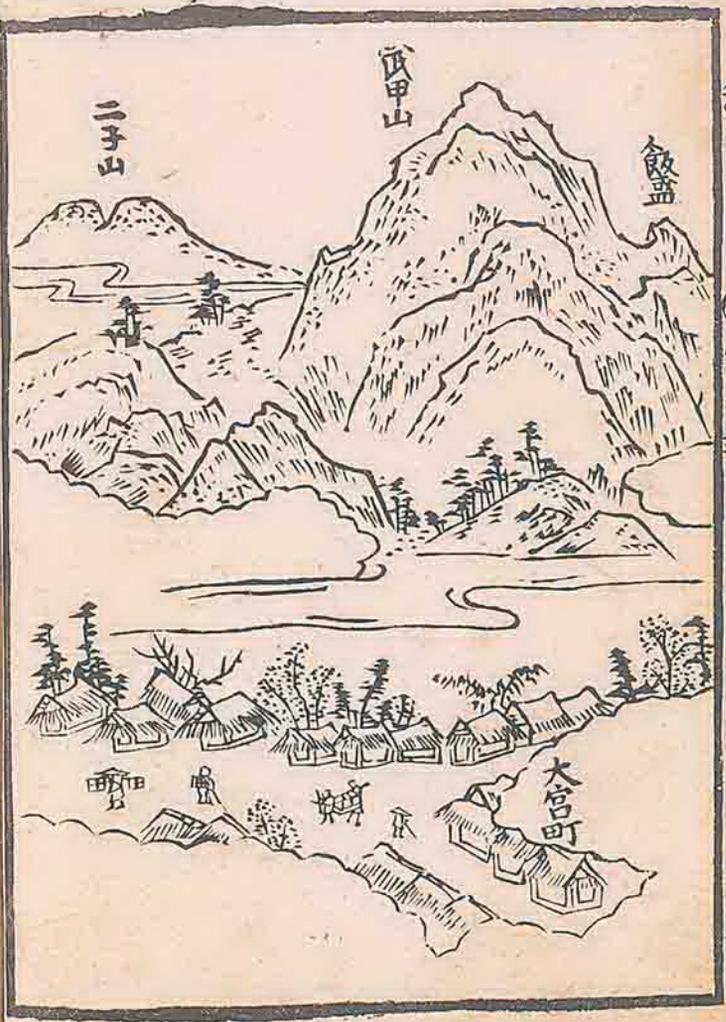
秩父

強く覚へて居る事を知る事  
志す事 秩父の事由記と云ふ  
侍りぬる類い山と云ふ人  
新書と云ふ事 時々は誰か録言  
ふ袂と云ふ事と云ふ也

正享甲子暮三月 宗述



秩父獨  
廩内記



秩父路の記

一名案内記

武藏國秩父郡ハ、往昔秩父の國と  
 号して、一國なり。後、武蔵の  
 一郡中、給ふ。其地豊饒ありて土産  
 甚多し。其号と秩父と云ふハ土積と  
 云ふ訓にして、莖積で山と云ふの意  
 なりと云。是秩父の人ぬく云傳  
 えり。説あり

舊事記曰瑞籬朝御世八意思無命十世  
孫。知知夫彦命定賜國造拜祠大神ト云

按るに國造の二字は此より世別する時八代已貴命ト  
云ふりたる徳祿なり。今此のミヤツト云ふは後世の必司  
と云ふ。神武記に推根津彦ト云ふの國のミヤツト云ふ  
由あり。是日本國司の始なり。名は八御奴ト云意也。已上

又觀世音の靈陽と云はるるハ三十二番  
般若の古記に行基菩薩定靈給よ  
あり。其後無廢なるまで。其境も

あり或ハ後へて新ハぬれもあり。其事  
跡ハ予が著し示の。矣通傳ト云一  
も。名よそし。川に記ハ開闢の年曆  
も一定なり。記一重々カ文書もあら  
くあり。一變あるといへども大抵  
文曆元年甲午ハ再無ヤ。以来と云  
今頂堂の次第及法山と云はるる物  
年の年と云ふ。開帳時一むふも

美  
天  
日  
巳

け因縁いんえんなり於屋い。一説いちせつは秩父ちちぶの靈場れいじやう  
 亭てい十三人の化人けにん踏分ふみわ後ごよと我われ拵しなけしやハ  
 靈場れいじやうの中なか後ご及およと再興さいきやうし冷ひやんごみ。  
 権化くわんげの人々ひとお来きりく。巡禮じゆんれいとまくし秩父ちちぶ  
 一いちちが終しゆうべい。是これと十三人の権者くわんしやと称なづ  
 して其その系像けいざうと刻まりて安置あんぢけしりの  
よのいゝあまね  
 世人よのいゝあまね善よく知し所ところおもん。妻つまく其その名なと  
 何なにもな。十三人の化人けにんと巡禮じゆんれいの始はじめ祀まつり

仰あやく事ことく。静觀堂じやうくわんどうが仮かり名な縁起えんぎより不  
 さんさんあるは。此こゝ偏へんよりし

△江戸より秩父第一番の行程

凡たゞゆるり秩父ちちぶの道みち三筋さんしんあり。よくは秩父ちちぶの  
 人ひとは倚よりて。但たゞ時ときハ川か越こ通とりと頭あたま路ぢともる人  
 町まち中山道ちやんざんどう越こ谷や越こ是こゝよりしける。吾われ野路のぢを  
 秩父ちちぶよりし江戸えどへはくれ高客たかきやくのと過かりて。江戸えどに  
 巡禮じゆんれいの人ひとのいちちとも事ことハ商人あしやんとハ利りと先  
 として行路ぎやうぢの難がたとも思おもふと。行程ぎやうぢの遠とほまと欲ほて

修のに比道あり付集せらる。婦人など引道  
なる路あり。さきや待秋連俳よんと  
ら替々らん人の目とあらこづせゆるんこと  
うぬらむも。比道ゆめそ。足箱の道連  
ふたあり。比吾神治とありて。古路と尋  
旅吟のちよと一併よる。この乃の名所ハ  
武蔵野地名考よる。

○第一川越通 早より廿三里余

△本郷森川宿

比町より遊分あり。とくに行ハ岩付道也

△平尾町

左一行ハ板橋通平尾町(おびる)太細也  
遊分あり。右の方ハ中山道下板橋あり。左  
の方ハ鐵道正板橋(十町)元御上水  
小橋あり

△上板橋 日本橋より二里  
馬つま回あり

移り候(廿六町)

△移り候(廿六町)

法定



△菟久保村

川越御殿あり。是より川越御殿あり

△大井町 馬次町あり

川越の三里。大和田町あり。川越の三里

△龜久保村

此より左に武蔵野堀子の井あり

名所あり。川越より二里

△喜岡村 △菟間村 △砂新田 あり

砂新田と岩村あり。此より川と  
りあり。橋あり

△岸村

うらと板と云有。此所より仙波新田

で板あり

△仙波新田

仙波星野山。五量壽中院とて。天台宗の  
檀林あり。御宮あり。別当森多院御建

立地あり

△通所

入るも本あり。先手所とも云。比間八所あり

△松郷所

へ早も本あり。左よ津土宗檀林蓮馨寺

あり。石原橋まへ十又所あり

△江戸所

川越御城大門口。比色と三より持とあり

こゝに聖の天神とて。霊社あり。ほま御

城内に御銚座別者高松院御建立可之

△本所 △高沢所 橋あり 石りりり

△石原所 △寺山村 川を 入る川の末之橋あり

△鳩田村 川あり橋あり △高坂村 石あり 三里

△とらや宿 高坂より二里 比るに川を橋あり

△小川宿 まへより二里 △安戸宿 小川より 二里

△坂本宿 やまより二里 △四方部 まへより一里

○第二熊谷通

中山道戸田區一番札所より廿六里

△板橋 日本橋より二里余

此戸田の後あり。川と谷入向川より。入向川村。戸田村。元蕨村なり。云々民家あり。お後山ふり。野原道あり。田畑多し。

△蕨 板橋より二里

△浦和 蕨より一里半

△大宮 浦和より一里十町

是右一の宮と稱し。西接し楠川一路あり

△上尾 大宮より二里

いづ村。観音堂あり。所屋村とて民家あり。いそとて山あり。野原なり

△楠川 あけとより二里

所家数百軒あり

△鶴巣 あけとより一里十町

新文  
（宝内言）

民家多し。所のお口は。日光山へ行けり。  
箕田村の中よ。八幡の社あり。波色の  
綱と繋ふと我。勝死寺とて浄家の  
檀林あり。是より二里西行くと。吹と  
いふ宿は多し。

△熊谷 とうのとうり四里八町

宿の入は親父川。橋あり高城大明神の  
社あり。蓮生山熊谷寺とて空実法師の

旧跡御朱印三十石の大寺あり。蓮生不  
持之什物あり。熊谷と出て。八九  
町行もむ。左は細乃あり。け取は袂又道  
の傍あり。け取あり。寄居まで。行福み  
里。其間田舎多し。石原。廣瀬。田中。  
尾田。あし川。なや。いふ小村あり。長田と  
いふ。まのまのの。栗屋あり。まの。尾田  
荒川の間に長文原あり。まの。て

新文  
（宝内言）

い通至級よ當つ屋支まのふ一行人  
か成るるゆへ

△小前田 馬次あり熊谷より凡四里

△寄居 町あり一畝田よりを里

△え宿 屋をあり寄居より十所余

い間左の山のみ又正龍寺と云ふあり。  
小條家の位牌あり。於鉢形の城五反  
よおわく刺髪一謙倉へ引移るる也

一と云ふり。委くハ大岡記に見ゆなり。

むうハ山際の清龍寺といふなり

△末野 え宿より十所余

山は少林寺花園山をといふあり

凡寄居より野上より二里ばかりあり

宿屋あり。入寺は惣持寺と云あり。法燈

園師の蘭基と云や。靈佛の文殊あり

△野上 全備へ三十所

夫心 葉の巳

△金崎

川あり舟可なり。是より皆井村へ出る

い間よ多福寺と云あり。平親王并よ

秋又なる患父子の墓所と云傳へ一塚

あり。なうり黒谷へ出く。一番へ出送る。

金崎より一里北所。又寄居るを荒川と

後まは金伏峠とて。雅所あきとも。一處

二里半をへ。い處と行人を風布と

い村よ名木の松あり。まあてるへ

又金崎より大樹へ出きむ。十八所あり。

い村よ菰玉稻荷の二社あり。なある宮

なりと也。又大樹より芝園へ出て

二十四番へ出路あり。是ハ逆よ巡行路

筋なり。左の方よ高松村大通院とて

禅林あり

○第三吾野通

日本橋より吾野まで九十六里余

△江戸四ッ谷

田か一村ありく四里

但新宿より淀橋へなる。右へ行るも言  
井戸へ出な

△田かー 泊前より平沢村まで三里

△所沢 泊前より平沢村まで四里

△をんのふ あが村より三里

子の権現より四里。但子の権現へ入つてと  
して。壱より行るも三里。大が村より坂と  
り。惣じていぬより行る。換又八重へ

順路く四里。八重也子権現へ八重へ一里。

谷あいの細路より。夜とこを路より。

八重分二番と道は巡り。及土番へ玉は各

通ふも二番なる川越通。甲は通。府中通の

府中通は二里半。是は江戸四谷分高井

戸へ出て。府中分神路之。武蔵中込砂川村分

根橋。古布谷久利合子屋と後。又は橋通。むさ

し神の内より。平比なるいぬ。古路多し

○第一番 四方 二番 (二十二町三十間)

け所いありへハ。枋木村とらへ。補徑塚と  
藤まき一ふらへ。四方 初とふ名付 付分。  
其塚ハ今も寺前あり。十三人の釈像  
と。札堂の傍あり。門あり。茶店あり  
旅籠屋あり。二番 小川坂あり。路ハ四方  
初と下り門と紙へ。一町をうり。追分あり  
て。左の細道と入ふる。十町 篠山へうりて

二三町 などの所を。清水あり。至て唐一  
け源と。高篠山あり。おふなりとい。向は  
常と茶屋あり。又 深より細道ありて  
二四町 ありて。二番の札所なり

○大柵 二番 二番 (廿四町 二十四町)

此寺の因祖。大柵 禅師の墓あり。給いなる  
鬼丸と云山あり。東の方より。誓も深と  
と。候ふる。谷川あり。藤原あり。世と後

つゝ洞<sup>たむら</sup>八<sup>やち</sup>所<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>行<sup>ゆ</sup>る<sup>る</sup>。左<sup>ひだり</sup>の方<sup>かた</sup>の松<sup>まつ</sup>  
 山<sup>やま</sup>は小<sup>こ</sup>社<sup>しゃ</sup>あり。勲<sup>いさな</sup>伐<sup>ぎ</sup>の宮<sup>みや</sup>とて。古<sup>ふる</sup>知<sup>し</sup>ありと  
 そ。是<sup>こゝ</sup>より一<sup>ひと</sup>所<sup>ところ</sup>程<sup>ほど</sup>は光<sup>みつ</sup>明<sup>あき</sup>寺<sup>てら</sup>あり。御<sup>ご</sup>朱<sup>しゆ</sup>村<sup>むら</sup>と  
 山<sup>やま</sup>田<sup>でん</sup>と云<sup>い</sup>ふ。茶<sup>ちや</sup>店<sup>てん</sup>旅<sup>りよ</sup>館<sup>かん</sup>あり。之<sup>こゝ</sup>番<sup>ばん</sup>へ行<sup>ゆ</sup>く者<sup>もの</sup>  
 小<sup>こ</sup>川<sup>がわ</sup>あり岸<sup>きし</sup>あり

○岩<sup>いわ</sup>本<sup>もと</sup>・三<sup>さん</sup>番 四<sup>よ</sup>番<sup>ばん</sup>へ十三<sup>じゅうさん</sup>所<sup>ところ</sup>十五<sup>じゅうご</sup>間<sup>ま</sup>

山<sup>やま</sup>のま<sup>ま</sup>なる長<sup>なが</sup>命<sup>のみこと</sup>水<sup>みづ</sup>ハ。庭<sup>にわ</sup>あ<sup>あ</sup>の井<sup>い</sup>あり。  
 子<sup>こ</sup>産<sup>うぶ</sup>石<sup>いし</sup>ハ御<sup>ご</sup>堂<sup>どう</sup>の傍<sup>そば</sup>あり。不<sup>ふ</sup>懸<sup>けん</sup>石<sup>せき</sup>と

山<sup>やま</sup>よりあり。又<sup>また</sup>岩<sup>いわ</sup>本<sup>もと</sup>の勝<sup>かつ</sup>と云<sup>い</sup>ふ。是<sup>こゝ</sup>より。小<sup>こ</sup>八<sup>やち</sup>  
 所<sup>ところ</sup>より入<sup>い</sup>る。四<sup>よ</sup>番<sup>ばん</sup>へ又<sup>また</sup>小<sup>こ</sup>川<sup>がわ</sup>と後<sup>ご</sup>の坂<sup>さか</sup>と  
 のが。細<sup>こ</sup>道<sup>みち</sup>と通<sup>とほ</sup>てい。終<sup>はつ</sup>ハ

○荒<sup>あらい</sup>木<sup>き</sup> 四<sup>よ</sup>番 又<sup>また</sup>番<sup>ばん</sup>へ十三<sup>じゅうさん</sup>所<sup>ところ</sup>十六<sup>じゅうろく</sup>間<sup>ま</sup>

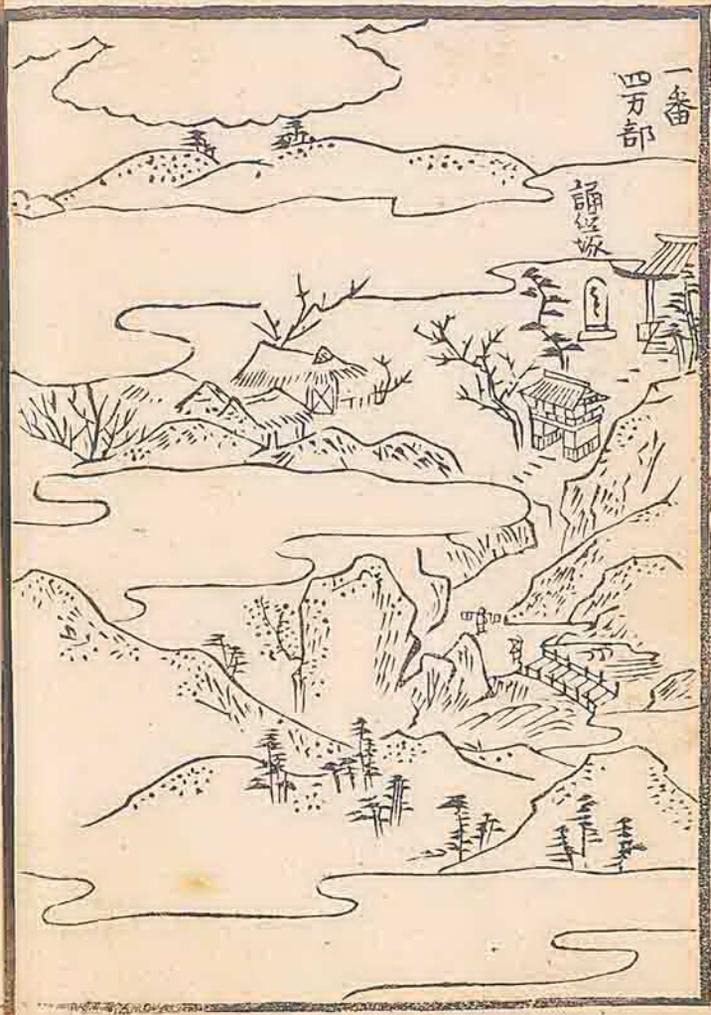
山<sup>やま</sup>の手<sup>て</sup>なり。え。觀<sup>くわん</sup>世<sup>せ</sup>音<sup>おん</sup>の立<sup>た</sup>給<sup>たま</sup>ひ。一<sup>ひと</sup>取<sup>と</sup>ち。  
 是<sup>こゝ</sup>より後<sup>ご</sup>は。乃<sup>すなは</sup>ち。高<sup>たか</sup>藤<sup>ふじ</sup>なり。あ。よ。茶<sup>ちや</sup>店<sup>てん</sup>  
 あり。旅<sup>りよ</sup>館<sup>かん</sup>あり。み。番<sup>ばん</sup>へ村<sup>むら</sup>路<sup>ぢ</sup>

○緒<sup>お</sup>歌<sup>か</sup>寺<sup>てら</sup>・五<sup>ご</sup>番 六<sup>ろく</sup>番<sup>ばん</sup>へ十三<sup>じゅうさん</sup>所<sup>ところ</sup>十六<sup>じゅうろく</sup>間<sup>ま</sup>

和文 案内言

新編 東海道 諸郡 諸村 諸名所 諸寺 諸社 諸名水 諸名山 諸名木 諸名石 諸名産 諸名物 諸名産物 諸名産物

一番 四万部



平比をり。別者の院ハを河津に在り。  
乃より入る也。六番へ小川あり。榎原川と右  
の川あり。一して廻る

○ 萩之堂。六番 七番へ二町三十間

森の中なる。別者ハ此と云ふ所あり。  
村落と七八何も奥なり。此あり宿屋  
あり。七番へ村よりをり

○ 牛伏。七番 八番へ十町三十間

新編

東海道

諸郡





坂あり。やまをよりて山間をより谷をり

○明智寺・九番 十畝(十九町三十畝)

平地に御堂あり。みちの邊に御堂あり。持之。十畝(八

小川に坂あり。是と名ぬりて留路給ハ一

○大慈寺・十番 十畝(七町十六畝)

山あり。長者屋敷の跡にありて給ハ一。

土着(小坂と越)て右(入)坂より左をり

らり。は渡女の池とてあり。新井のえりあり

航路ハ一

○坂氷・十一番 十二畝(十町十畝)

け原の氣向石と尋ぬハ一。十二番(八畝)

をりてたの細路と入系

○野坂寺・十二番 十三畝(八町二十八畝)

ふもあり。奥の院ハ後の山あり。武甲

山への道あり。十二番(八畝)

○旗下一・十三番 十畝(八町零八畝)

大宮所裏あり。十三社の新像あり

○今宮・十四番 十六番（西町又十回）

八次宮あり御朱印也 十二番（一町）と通ふ

○養福寺・十五番 十六番（八町二十番）

い寺とわく。右の方子妙見宮御朱印也この

久大己貴宮と法在。い所と大宮と云。大己

貴宮八日右大宮権現あり。所の号と云

り。むらり亦あり。おむ纏ハ上月三日の書付

と云くあり。あるは久大己付てハ聖徳太子神

社本記曰我是北辰精也。踊妙見大菩薩自昔

此國人名我曰天御中主尊七佛八菩薩所説

神呪經曰我是北辰菩薩号妙見陀羅尼畧之

漢書曰祭大乙以昏時是と云て書時も祭

ふ。妙見宮の統る。世も云傳ふ。あるは久大

付てハ神祕のゆり多し。ゆり△い殿と

柞の森と云。古書よいつる柞の森ハ山邊也

矢之 一六四七

うへに山家の何れに風といふ

ふんごうの紫はけうふそあひむ 紀夷之

○西光寺・十六番 十七番(七町四間)

平池あり。十七番へ左の細乃入ふ

○林寺・十七番 十八番(十町二十間)

平地なり。十八番へ入ふ細道あり

○神門・十八番 十九番(十町四間)

平池是より海へ出ふ。右の字は廣見と

あり御朱印地道の右は坂東閣とて堂あり。又十

八番の別表ハ大宮の表十六番(出ふ路の右

より何なり)

○龍石寺・十九番 二十番(八町六十間)

御堂岩よま立たり。二十番(下り乃荒川

と後不舟あり 荒川古書三見(タリ未、隅田川ニ塔ル

○岩之上・二十番 二十一番(六町十間)

此代よりとて荒なり。岩下と中少ハ乳あり

場あり廿一處（行るゝ宿屋五ヶ所下る處）

○矢之堂・二十一番 二十二處（六町四間）

高きかり山下も宿屋あり。是より山より分

○童子堂・二十二番 二十三處（十六町半間）

山のちち之番（うら）起り路右の沢田村

とくし上家あり。福寺見ゆふ御朱印地又二十

三番の裏より小麻路吉田の宿（海へ通

あり。二十三處）も出ふ八人峠と云と通せん

川かー乃を里餘田村とあり茶屋あり

八人峠之事圓通傳 委シカノ八人ノ塚圓福寺ノ裏ニアリ

○小麻路・二十三番 二十四處（二十八町十間）

山見ゆより大交（出ふあり）林森の川と後

舟あり武の鼻とのみ二十四處ハ一川其

外堂り下り多一宿屋あり

○白山・二十四番 二十六處（二十三町三十六間）

山の石の階と起ふ。二十六番ハ一川のあり

くさり地所

○久那・二十五番 二十六番(二十九町十回間)

此代縁起と以て考ふ。昔ハ人家もふるり  
し。今も一村之家とあり。山も又淺  
一。二十番ハ荒川と後分。比川をより。表  
の岡と云。傍あり。常少川の案内と云  
る。其家もふるり。荒川あり。後より  
くさりと云。久那の山越して。二十二番。二十

三番の岡と巡ふべし。此通ハ二十九番あり。く  
れと納もより。これより。及後と同一

○下・新森・二十六番 二十七番(十一町六回)

ふらり。麓より。宿屋あり。御堂ハ八村あり  
八所のがふ。廿七番(ハ)り。村と行く

○上・新森・二十七番 二十八番(十二町三十回間)

山の子。比色。宿屋あり。二十八番(ハ)谷川

二・新森・二十九番

夫(一) 新森(一)

○ 檜立 二十八番

二十九番(十八町六十四間)

山あり。岩根と由りて入る。御堂の後にて  
岩あり。け洞中より異境あり。霧の海は林原の  
川よりあり。凍きハ十四番の持あり。十九番  
より山村と通ふ。小川あり。又浦山川よりあり  
てさか。諸の里あり。後と同く。是より  
日取一石山の大日堂への道あり。右  
のり。諸より。諸付より二里。諸付より一石山

ちて四里半。一石山より。念次大日の山

三十町。一石山より。富士山へとも。こり

ゆき氷川へ。と。一里半。氷川あり

井戸地へ。九里半。井戸地より。猿橋へ。二里

○ 猿橋より。矢村より。三里。○ 矢村より。吉田へ

三里。○ 吉田より。大日の山より。三里

○ 笹之戸 二十九番

三十番(一里三十五町二十八間)

諸より。つら。越へ。左の方。二町。餘。笹の

戸の山なり。右よの細路と申して。戸の  
 馬村と云よ別荘あり。世の戸あり。出く  
 上田孫村と云あり。宿たつた左の方に。美法  
 児山あり。十二社権現と申。此方。是より。暗  
 夜川と云とワリ。山村と云。上トリ。あ  
 谷川。深あり。先。築徳あり。深谷へ入。是よ白  
 之村と云。宿あり。

○深谷。三十番。三十一番へ。三里三十二町

山のより。奥の院と云。三町入。観音。至  
 不動の三尊。或云。産摩石。鉅鐘。不。云  
 洞中。少者。是より。二十。六町。又。白久村  
 と云。お。茶屋あり。宿あり。左よ。大日向  
 入。分。進。分。あり。及。三里。山路。檢。茶店  
 後。郎。分。一。三。里。山。一。三。里。是。より。う。ち  
 越。され。も。甚。難。所。あり。抑。此。日。向。山。大。陽  
 寺。と。佛。國。應。供。廣。濟。國。師。開。闢。一。鑑。

不靈場あり。國師と。後醍醐院才三の  
 皇子を、おろしむる不と我。二十二歳ありて  
 正法眼發よか多しおいて。法國は靈場  
 と稱ふ給ひ。い所は、魂もりて、年七十  
 ぬ家めく臨寂し給たり。偉く高き歌  
 日大和者ともなまきり。於古左の物語あり。  
 山のほろや。國師い山よりくまおし給り。に  
 村丈とも溜酒と持來り。ものく給り。に  
 ありありとさこ。先ききりねん。吾ら  
 笑ひく。物一首とて。さして。まらまら  
 山居し。公と。まら。舞の  
 に。ぐり。酒と。何と。奪らん  
 國師とり合。まらと

山居し。その心。な。まら。の。酒  
 と。そ。も。憂。世。ま。ら。む。分。て。ら。ふ  
 と。興。し。給。り。不。と。ま。ら。其。外。靈。驗。幽。玄

たり事どもゆきと瀧川の五師ハケクミ發ハケクミ  
 と利スリ結ムスありゆもふりゆきばさく人イヒケテウ類イヒケテウ  
 ともそ先あるとちうり寺の後ウケハ十二社  
 権現とある。まおカハセミ靈跡カハセミあり。岩イハ安ヤスよ  
 来りてそふミ金カネ一。まお大陽寺オホニチノテラよりニ寺テラ  
 よ登ノボらんゆら心ココロ越コえしむ。うくくオモカハ景内  
 ととふべ。容易ヨウイの道ミチあり。又本通  
 より登ノボふより大日向オホニカウとらりカ落川オチガハと云

村より川と後大田系へおふ○三峯山ミタカヤマ  
 観ミ白シロ文フミ村ムラより川とらり追オ分ワあり。鑿ウツ川カハ  
 阿アより大田系へ一里半。げ間イノミヤ猪イノ野ノ兵ヒヤ村ムラ小コ林ハヤシ村ムラ  
 なゆと云ふ。大田系より七所ナナカより大橋オホハシ村ムラ之  
 又大田原オホノハラ通ト寺テラと云ふ。平親王ヘイノミヤ将門サウモンの御ミ  
 親ミあり。大橋オホハシ村ムラと下シく。橋ハシと後ノチふけ橋ハシ長ナガ  
 十二間ジュニマ丸マル本ホンの一本橋イツポンハシあり。まもとて二ニ所カ  
 一の寄居ヨシイあり。号ナよりカ法ホウ飯イ十二所ジュニカ坂サカ中ナカ

日庵あり。精進場とて垢離とてふ所也。  
 此御山女人禁制あり。む大と急赤筋の  
 後心ゆへー別當 親音院凡い三卷とて後行者の  
 開闢とてや。本宮大権現ハ伊弉册のそのの  
 垂依慈那御一神なり。本比ハ一面觀者  
 とて。もうー文武天皇の御宇後行去停  
 豆園はよさよとていふぐ。夜をく留士は  
 のが。秩父の飛行ー雲採白峯妙法

の嵩。各々之等もよおおと。修法ありーと  
 其後法海公の御娘光明后宮別れの  
 子細ありーと。昔城の好久とてうらべて。  
 守成せし先。一面觀者と安置るるふと  
 なり。且此山は之を賣るあり。又靈言二  
 羽つ棲く赤筋の人と告あり信あり。  
 骨く振ありて。田畑とて獲一。依獸と  
 入るごと。為累せよと傳ふ非妙。殺伐

秩父

〔安房内言〕

一十九

知くは。識はるる。御山あり。又重忠あり  
 の御書ホ。其外靈ねいりやう多し。夜こあり。大日  
 向へ下ふ。乃あり。必かならず東内とふ。左一。  
 之十一番へら。白ましろ久村。方川とり。く。く。  
 右の路との。日ひ白村と云。海うみあり。そ  
 ちより谷。乃ちや茶店。一軒。た。り。あり。海うみあり。  
 且け路と。か。く。あ。き。て。石井村とあり。  
 是より又。地ち乃と。海うみあり。道みち分。左の。

ちより入。瑞みづ侯村と云。あ。き。て。海うみあり。く。く。  
 つく谷間たにまなり。小森村と云。入。て。宿しゆく屋や多し。  
 又茶師ちやし堂村とあり。一。つ。は。唐たう村と云。此  
 茶師ちやし堂だうら。又。回かい二。奉ほう弘法こうぼう大師だいし建けん立りつ也なり。あ。き。て。海うみあり。  
 と。靈ねいりやう驗げんま。と。著ちやく。一。別べつ意いと。四し所じよ屋や山さん法ぽう  
 親おや寺てらと云。御おん兼けん地ちけ村むらを。受う所じよか。め。も。左ひだりの方かた  
 は。三十一番へ。入い。不ふ追おひ分ぶんあり。け。る。は。く。く。と。川がは  
 この山やま川がはあり。上うへつて。西にしの方かたは。州しゅう山さん中ちゆう領りやう

新編

雲南言

七





美子の紀へんは、まの心もあつた。又亡母  
 の妾もいらん。おせん、我産る子と  
 して、あひても喜ばく、産まて、婦人の如く  
 先と。一節は先妻のよとの、艱育して。  
 とのが産ふより、一向うり、そよせむり、これハ  
 日々、腹が、後、ら、と、も、心、ば、く、思、ひ  
 切く、先婦の子ま、びり、を、乳、が、と、と、め  
 る、於、か、ま、己、が、ま、い、術、は、死、し、ぬ、勝、と、断、坐

一も、継子が、犯、を、て、生、を、と、る、よ。あ、い、く、て  
 心、と、く、さ、先、今、ハ、心、易、と、お、ひ、の、依、り、表、  
 育、せ、く、い、ま、も、け、志、と、知、て、感、歎、一、ま、娘、の  
 中、い、目、を、及、里、人、も、喜、く、知、て、感、せ、と、と、云  
 り、あ、か、一、是、ホ、ハ、唐、の、天、和、の、文、子、記、一、吉、人、の  
 仍、跡、ま、か、き、く、お、に、余、も、も、強、ま、志、お、は、  
 世、の、人、あ、も、知、く、好、ゆ、何、く、あ、く、く、後、よ  
 ち、一、仰、ふ、序、の、か、り、ゆ、々、烈、女、義、婦、も

あゝあせど。知人よまゝくふさひ。けりあるれ  
や。つゝ能くしゝるめと 義埒線終

〇 鷲岩窟・三十二番 三十二番へ二里二十所

奥の院へのけり。そのたへ下れ 險路たるを  
けり。日尾城とて古城の跡見えけり  
城ハ須和の遠江守定勝築つて。定  
勝常に酒とみ。沉醉とて。けり。けり  
けり。敵けり。やと。やと。責た

つゝ。定勝ゆり。一。碓町。流の如く  
けり。其妻。く。く。甲曹と常  
一。女。其の具。自高橋。欠。リ  
下。けり。定勝。先。對。陳。一  
終。村。死。けり。又。定勝の妻ハ遠山  
丹後。吉。姫。み。けり。女。が。けり。其。豪。雄。の  
者。あ。り。其。後。髪。と。り。妙。志。尼。と。号  
一。若。ふ。と。也。又。け。岩。谷。の。川。糸。よ。ゆ。る。大。石

案内記

志のうけふふかきやうは。貝殻多く取返し  
 てあり。まへていあさるの谷間くつのとさ  
 のりゆきあふど。陰海の夜一たるまや。  
 誓の志密ゆるし志殿はへ房にて海乃へ  
 出ふ。松坂の光源院とてあり。御朱印坊  
 小麻路所へ入ふ。左のふのみに諏訪明神  
 あり。い里ハ小麻の系とて多ふなりと云  
 傳ふ。又武蔵野の内ぬも。續々系。小麻の  
 系をゆきさふとあり。りしとありと云ふ  
 かあに渾一なるか。と云ひけ里の石  
 と持ふ。知れぬ所をて左の方を所  
 たり。小鹿明神の宮あり

け御神の安よ立を拾う。傳さぬあり。又古左の謠曰  
 昔首於よはれか一老人は。地は居と移一来る。別春日  
 明林の使者とあり。法書とて。その後人。居もけさく  
 しく。社もろく盛業はゆふた。かのづつと云ども  
 小麻の里と峰ありとありとあり

是より信濃石より小所は園林寺なる也  
 即地又二所なり。遊ふありて。夜く下り  
 小判はとまるとり。ふへのばふ洞窟  
 つつあり。ちまはむ。れあり

○般若 三十三番 三十三番へ一里二十所

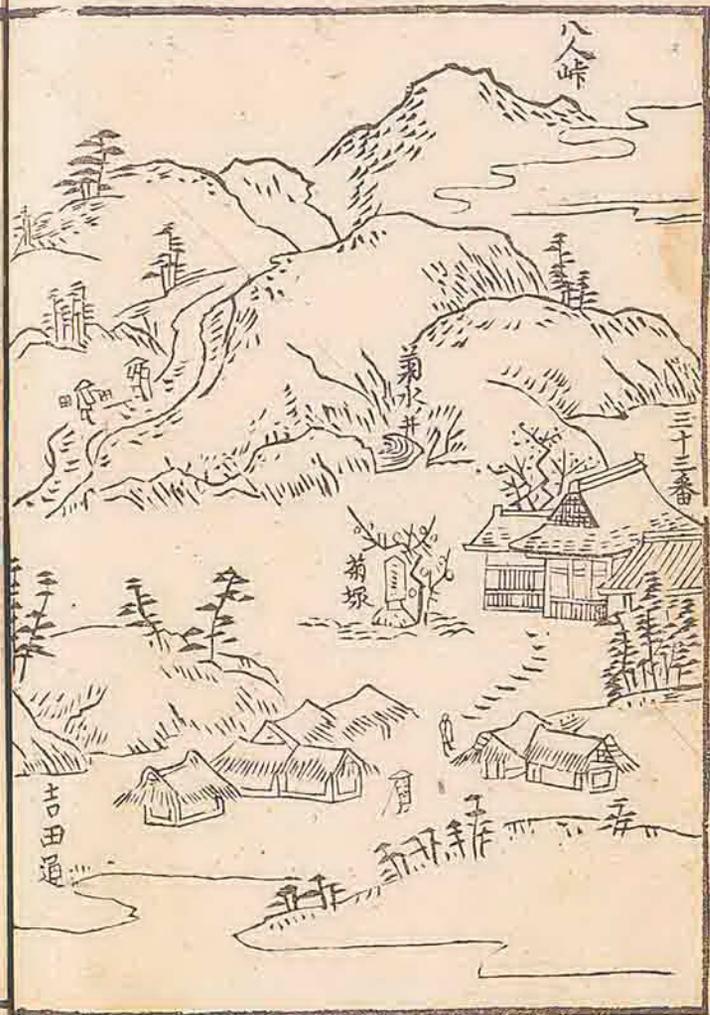
ふなる村とも叙ふと云。四所のばり奥の  
 院わり岩のあり。巨船と名する也  
 一。長サ二所條。高敷寺なる雲を

洞谷 廿三番へ一里二十所

十六村。茶食村と云ふ。茶屋宿あり

○菊水寺 三十三番 三十三番へ二里

平代門前より茶店あり。宿屋あり八人  
 ち辰己よりあり。抗伐碑もせよ。是の  
 菊水の井より小坂下村あり。入系。御堂の  
 茶の菊塚と云ふ。是ハ俳諧の  
 正徳芭蕉翁追悼の碑ありと。さうかハ



けわたりを交風人連と聲し。石六十回忌  
 の法蓮と菊あり寺は儼々かあり。たうと  
 菊の塚よりいふは追々集も出ふ。その  
 碑面は石の透冷と刻あり  
 ると菊や於振ののふ白の塚  
 別地菊の生蹟と怪んで。塚の靈とせり  
 とて。菊あり寺と出て。六所條行。後戸川  
 とて。をより春より橋あり。まより川

二階（せ）こへく吉田町あり。け宿の法（えい）も八幡  
 交（ま）かり。やしらむのり。げ八幡宮（やま）  
 名（な）を志（し）建立（たて）あり。由来（ゆらい）け鶴（つる）う室（むろ）といふる。  
 秩父（ちちぶ）十郎（じゅうら）武綱（ぶくわ）の居城（いじやう）なりと伝（つた）ふ。其（その）名（な）  
 も相州（そうしゅう）鶴（つる）岡（おか）と稱（なづ）けり。其（その）後（のち）秩父（ちちぶ）  
 十郎（じゅうら）武綱（ぶくわ）も重忠（しげただ）四代（よんだい）の祖（そ）と傳（つた）ふ。源義家（げんぎけ）  
 は傳（つた）ふ。然（しか）るは畠山（はたけやま）と稱（なづ）けり。其（その）先（のち）  
 重忠（しげただ）の時（とき）武州（ぶしゅう）男（お）衾（かき）那（な）畠山（はたけやま）の邑（むら）に居（い）と  
 稱（なづ）けり。其（その）後（のち）居城（いじやう）の跡（あと）今（いま）あり。又（また）吉

田町（たのまち）と出（い）だめて川（がは）と流（なが）る。右（みぎ）の方（かた）に清泉（しみず）  
 寺（てら）あり。御（ご）祭（まつり）左（ひだり）の方（かた）は井原（いづはら）の宮（みや）あり。け井原（いづはら）  
 五所（ごしょ）大明神（だいめいじん）なり。寺（てら）一（ひと）殿（だん）は膳（ぜん）回（まわ）り大社（だいしゃ）なり。  
 其（その）外（ほか）春日（かすか）日（ひ）御（ご）前（まへ）と名（な）ふ。始（はじめ）日本（にっぽん）武（ぶ）蔵（ざう）東（とう）夷（い）  
 征伐（せいばつ）の時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。  
 光（あき）と名（な）ふ。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。  
 二十（にじゅう）所（ところ）あり。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。其（その）時（とき）にあり。  
 別（わか）れ採（と）りて。別（わか）れ採（と）りて。別（わか）れ採（と）りて。別（わか）れ採（と）りて。  
 根（ね）はあり。水（みづ）

金剛院有  
御朱印地

と結ひ給ふ。孫田彦の天神家も現一  
 東征の守とあらんやとらざらふ。是は  
 龍と括て結ふと云。又春日所と繋り  
 もふ。入皇六十一代朱雀院の清寧。依坂  
 を秀郷平の将門征伐のつゝ免。所と合  
 繋ふ。別浩陽の吉田と繋ひて。神と  
 繋ひもるより。郷の名も吉田と稱せり  
 と云。則延喜式神名帳は侍。孫の神社是

なり。又井の字と加ふる事。一社傳來の  
 名ありと云。又山城と云。吉田所より  
 成文は見る。山と云。お門の古城ありと  
 云。今日其跡跡して。牡丹芍薬の類  
 其外花木多く。或る古谷。箭の根を  
 と云。是は拾ひ得るもの。いさゝか古  
 城といふ。其城重さ。いさゝか  
 侍と云。又箭の宮と云。孫の末社あり

幻子の林と云ふと云。織や将門敗軍の  
 とり。嵐多くおく。兵具と喰破あるや。  
 是秀郷丹精あり。げ大神の言應と  
 りつう。又井原の村よつて。寶物多  
 し。げ宮と一所かたりて。阿熊通と云  
 ありて。あ沼へ出ふ。又之長通と云ふこと。  
天誣寺有  
 市朱印地
 れ立派と紙と。路のうらうらま  
 湯紋清ありと云あり。

△赤岩案内并畧縁起

是より西あり。赤岩と云所あり。むし  
 の絶境非類の通途あり。あはげむし  
 見るへ。結女妙応ふ息子の親世音。は  
 かん不可量の慈悲を。立身終あり。たゞ畧て  
 縁起と加ふ

道ハ山より一里余。小川二瀬馬駕御坂六所  
 坂中より左のふも。自然石の大口を立給



本と似し。地蔵尊と化す給ふ。其外又條の  
 佛像あり。之も之も。千歳の面容多  
 く。雨露のくろ子。朽瘞せり。又岩壁は  
 救子の小佛と彫つるあり。梵窟山は  
 同一。率乎け説く。秩小は標として。絶頂  
 百歩をく。九折盤回。救百歩の間。巖々  
 巖石。裁く。か削壁。攬長羅。援飛莖。あり  
 どんとのがふるも。あり。龍藏香判も

亦岩と燕と。石と椽と。珠と赤嵩のふも  
 ち。く。急ふ。の赤城の雲も。後よ。あがむ。く。べー  
 遍く。園伽の水として。刻木。取泉。相。花。交。發  
 氷。煙。葉。玉。潤。一。滄。鳴。して。南。は。む。く。う。飛。龍  
 丹。楓。いつとも。雲。秋。の。孫。は。留。つ。幕。は。女。別。田。と  
 玄。里。あり。昔。世。所。は。何。米。と。いつか。富。家。の。一。女  
 あり。一。う。稚。して。母。は。く。を。ま。後。母。の。か。け。を  
 こと。且。暮。を。く。ま。け。前。の。入。る。せん。と。思。ひ



ある一女子所在と歐子。本寺の居後、舌強  
 て座せり。則、小女子細く結ぶ。及て覺道後  
 一に、繼母も干悔して、俱に信者とかり。於  
 此、實と捨て一字の莊嚴とあり。是、女園田  
 常力とあり。いふ人、まて作りと。今、文の昔物、終也  
 続、徳、寫、以、奉、之、耳、蓋、此、境、表、廢、數、百、歲、  
 有、三、峯、山、之、日、光、上、又、近、繼、絶、予、又、日、板、  
 三、峯、山、中、興、國、字、記、省、者、使、之、

○ 名 潛。三十四番 札所終

山あり。清堂の傍、穴あり。洞中、乳房  
 石、乳、母、不、ふ、と。其、外、弘、法、大、師、の、靈、跡、  
 と、つ、傳、ふ、不、多、す。兼、と、日、跡、は、と、  
 窟、在、あり。是、より、何、久、間、通、の、乃、空、所。  
 日、の、汲、と、と、あ、ま、金、の、空、游、と、と、瀑、布、有、  
 絶、系、あり。不、動、尊、立、像、あり。靈、驗、の、り、志、  
 有、必、不、精、進、あり。参、り、は、又、世、嗣、あり。

婦人おんなはなほ福ふくく新あらたかよふ事ことありわ  
とやううかかふふ。順禮じゆんらいの位ゐたたつて  
いいふふ。

さうさうまのまの比ひ

おおのの比ひああややととて

出羽行脚

葛籠

室むろは山やま葵あひののままあり山やま産うぶ  
又またああのの七しち所しよ行ゆく。左ひだりの方かたは  
南陽山善福寺とて。四十八しゆじゅうはち如來にょらいの

一いっ言ごんは新あらたくくままり。ままののここささ靈れい驗げん  
とともも多たし。順禮じゆんらいの位ゐたたつてつて  
おおとと下くだす。柳やなぎ社ぢや善ぜん光くわう寺じ如來にょらいのの家け  
はたはた新あらたくく中ちゆう縁えんととなな多た善ぜん光くわう秩ちやく  
父ちちのの靈れい場じやうとと老らうととり。比ひはは新あらたくく  
のの例れいありありささららにに是こゝららりり南なん  
川がは系けいはは各かく湯とうのの涌わづ出でふとと比ひはは枝えだ  
とと得えるるままのの門かどをを不ふ國こくとと帰かへるる

矢火

山内記

四十二

あのの一層と負来り。多よ安室也  
 つとれ。是より二十一所法路と  
 西國寺あり。乃又二ツよつて  
 たり。上及妙義。榛名山。石山。入  
 函系海邊あり

秩父獨案内紀 終

勸願禮統

變順礼修行しんじゆ入道結縁けつえんの一端いちたんなり。是  
 法あんぎやより行脚ぎやくの修行ありて。其修行の大なる  
 者あつたひなり。いまこゝ室の内むろと出いささむとも。一念  
 普あつたひく觀み無量劫むりやうけつ無任むじん無去むこ無來むらいの如ごとく  
 變り善ぜん也。其次つぎなる者ものなり。海うみ江え海うみ邊へ山やま川がは  
 尋たづ師ねり坊ぼく道みち系けい學がくと。習なて又また其次つぎある者ものハ  
 系けい里りを漂ひら泊ちやくし。壺か場ば代しろなる遊あそ戯び人ひと間ま

秩父獨案内紀

東の有為は感一。山部野亭の起卧も  
 文は菩提の種と云ふ事と親とた  
 一切の善男女乃至沙門入道の徒も。友  
 よ心あらん者なり。けし於て修め  
 居よしやなり。柘頰禮の中は吾朝は  
 花山の法皇頰給ひての事とあり。又天  
 竺中々しんじやうの事と云て靈境と云ふ事  
 あり。頰れ又このめんともありと云はれ。又

後續と云。後摺とも云て。頰禮の著るる  
 法後の中。其由統一統なり。柘養老  
 年中元正帝詔あり。沙門行善及  
 と万里の外は遍真化遊して弘被練  
 と云む。此善其友の肩はあきて。法衣  
 を被らん事と云はれ。麻の被後と云り  
 肩より中。佛名と書。左衣は袈裟  
 の文と字号と云ふ事。今是は表袴





刻る佛像ちぎるぶつぞうと具足くそくは満まんの仏ぶつ神かみあり俗  
士の刻める像ぶつぞう亦是これハ佛ぶつはわらへは後のちいふ  
多おほくくを念ねん犯人ひくいの後のちなる事ことありせよ。善  
薩ぜんさくの法ほふはよりて。縁えんはんハ菩薩ぼさつの  
縁えん哥かあり。又またある人ひとの縁えんあり。其その心  
善ぜんありとん。信しんとては。和わ軟なんハ心こころと縁えんと  
とやとり。何なにぞ其人そのひとと。もあつて。信しん人の  
後のち。是こゝホの善ぜん別べつと見みる。うへ。おひ又また他たの

る縁えん難なんして。故ゆゑの知ち感かん達たつはんと。仏ぶつ工こうの心  
もゆるなん。口くち苦くうと云いふ。是こゝホ其その理り  
と知ちらる。能ひ傍ぼうの罪つみく。又また信しんハ佛ぶつと格かく  
らん者もの。他た者ものよりる。うへ。た人ひと世よの自みづか  
刻ちぎる給たまふ佛像ぶつぞうあり。其その人不ひと信しんあり  
利り生せいたるわらん。うへ。とて一向いこう他たの  
と將まさなるよわらん。經きやう曰いふ積じく土ど成せい佛ぶつ廟ぼう聚くわい石せき為なる  
佛ぶつ塔たつ嚴げん飾じやく作しやく佛ぶつ像ぞう或また以もつ指さし爪つめ甲か而して畫え作しやく佛ぶつ像ぞう皆みな

已成佛道也。然も童子のたりあき。仏の  
 御形と化すたらんも。皆是功徳なり。いふ  
 況や古の徳をよむ人の。化すたむひる  
 法もと申。仏の事よみ只そのが徳の心と  
 して。い餘りせと。之りんさるりて。我あ  
 ら酒酒カキも。あはふ。仏の事我よ  
 妙哉ミウサイ利生リセイのゆくと。化の感念カンネンと  
 云。彼ふり。よむ。た人ハ

茶碗チャワンよも。入て。新魚シンイサ鯉ニギハヤヒ鯉ニギハヤヒあ。はと。さ  
 一。大魚ダイイサのあ。は。は。小コも。は。あり。  
 何そ。茶碗チャワンよ。大魚ダイイサの。住スミと。入て。大魚ダイイサは。龍リウ  
 魚イサあ。は。と。や。い。ん。や。又。感念カンネンと。衆シュウ者シャ  
 も。左サの。如ニ。不フ惜シク身シ命メイの。功クと。積ツク時ジと。無ム  
 念ネンあ。ふ。る。あ。は。必カナラ妙ミウ無ム者シャ。又。心シン急キウ惜シク。一。て  
 餘ヨリ念ネンよ。あ。は。と。時ジい。く。利生リセイあ。ん。然シカハ  
 一。度イツ感念カンネンと。得エり。と。我ワ了リョウ佛ブツと。云イハよ

和文 正安内言



三昧ある。是れは思ふ所ありて無きもの  
 一と知る。思ふ所ありて無きもの。今日の人は有て  
 くる。何れもくみ難し。拜んて佛も後と  
 八見終ふ。世に禮れ修行を。殊務あり  
 事のいわり。家持つとく。人あも救ま  
 能く。程の人の妻も。家の子。我い。こ  
 ひ。めのとあんど。一人具して。あつ。ま。ま。ま。  
 世の物もあら。一日二日。こ。子。程のあ。ま。ま。ま。

一。く。為。諸。別。も。ぬ。ふ。あ。る。人。目。面。証。を。ま。ま。  
 深。く。義。後。兼。たり。賊。門。よ。ま。ま。ま。ま。湯  
 一。つ。と。乞。よ。い。ま。ま。ま。茶。碗。は。深。く。ま。ま。ま。  
 く。と。扱。て。音。出。せ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
 て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
 程。寢。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

んどはまといと嫁一。或ハ月別おぬ山家  
 の後居めはしりしとんして古歌あんし終一  
 び。何さく伝の事ありうこ。心とま  
 泪と涙一つ。或ハ播亭も局もてああここ  
 あこしとつ抱。昔ささ珠敷はまくり。  
 普門品会伝和後法縁談をし終り  
 しく唱あけらる。又殊務あつたや。或ハ  
 六部預れの行来あねぬり哉人も宿り

合者さるよ。たがひは國名あし。その供  
 者。又うさる家子。離れし妻の如燈菩薩  
 撰も云々慈悲と初りて。赤外ぬきハ  
 胸さうり。心細く涙もたぬ下。これ所  
 くをゆふ思ゆら。果と色川と哉。谷成  
 後子。泪と傳ふ。夜ハ別ぬ縁夜よあねて。  
 登のものの。赤見もあや。ふよりたると  
 登とく足を振庭。揃つては赤い言けハ



あつとて思ふあふ。何國のまふ人あん。  
子やわん。妻やあつんと。見らむハサ  
らよ定あれた世の候も思ひ合と合し。  
あつハ母の程もあつとる。須禮ふとの  
えともく世のあつあつて。冬はあ  
る柿枯のりる。あつあんと。拾ひて  
訊と一のさ虚木もあつて。あを  
らあふ。あつと便は一夜とあつたは

あつとて思ふあふ。何國のまふ人あん。  
子やわん。妻やあつんと。見らむハサ  
らよ定あれた世の候も思ひ合と合し。  
あつハ母の程もあつとる。須禮ふとの  
えともく世のあつあつて。冬はあ  
る柿枯のりる。あつあんと。拾ひて  
訊と一のさ虚木もあつて。あを  
らあふ。あつと便は一夜とあつたは

夕陽の光を南に大懸と称する也。又あはる  
 一或ハ山平と一日降る也。合おる者これ  
 じ杖ハ昔よりありて此もまた。草鞋ハい  
 つも切きて。後ハもうとあんととらあそ  
 佛のたすく地へていせねぬ。あるハ昔  
 うらよ昔方うらよあるありて。月のあ  
 ぶも昔よりいせ。あはるうらよあそ  
 夕陽の光を南に大懸と称する也。又あはる

眼をくく南に晴く色ハ常の川音ありあ  
 る我いとう色——と後立あはる。瞳月  
 二月のうらよいせ。伏色谷川ふとら凍あり  
 て。細く流る氷て。見角。朝日さ  
 ありて。おれね。打色けり。たもくらめ。後  
 て。田舎ハ畑とみせ。是いせ。三口昔の  
 流れと紅の年の目。吹比の室いと昔く。山  
 くる木の芽けり。芝原ハ陽をり。あそ

中在羅刹白象と帝釋家もいづくいづれ  
 互を殺めて浮世の根もなす口をさす門一  
 浮生非目ハ物の花多き世ハ心路の志宗  
 さへいづよわん斯て青紫よぬり行筆と本  
 の業ありけ秋冬の行衆めと。大樂の化  
 縁より引もそのいづよ順礼せしやあるへき一  
 とい順礼と勤人者あり。三ツの階と下り礼  
 せしと。然師権現の事務云ありと経。又

日一終は世系ささふめん母も順礼の功  
 徳あり。慈悲法施の念と生一。又のこ  
 つよはうも世なり人とも。聖徳場よ入まら  
 信んを親と孝侍國の人めも心ゆか  
 さき。あし一ツ世同ハ世とすん。兄弟の  
 同めも増しとくろき一。むらも平守  
 無差別の心とあるる。皆是大悲の結縁  
 あり。むらも順禮の利益と知る一



